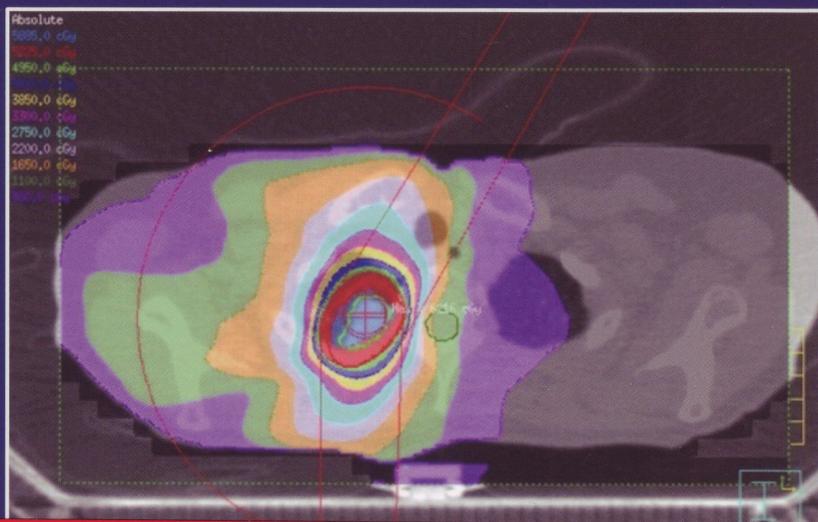


先端医療シリーズ 46

呼吸器疾患診療 の最先端

編集主幹 杉山幸比古、近藤 丘、中西洋一、奥村明之進

編集委員 高橋弘毅、一ノ瀬正和、吉野一郎、本間 栄、弦間昭彦
池田徳彦、須田隆文、伊達洋至、永安 武、寺田弘司



新刊

呼吸器内科・外科の 最新のトピックスを網羅

呼吸器系の分子生物学、肺癌の最新の内科・外科&放射線治療、呼吸器感染症、びまん性肺疾患と間質性肺炎、COPDと気管支喘息、肺移植・肺再生、呼吸器内視鏡、呼吸器用薬剤

社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院

(略称) 小樽協会病院 呼吸器科

1 病院の概要

当院は、大正14年9月1日財団法人 北海道社会事業協会付属病院として開院されました。昭和27年5月より社会福祉法人に組織変更され、本会小樽病院と改称。5度の増床を経て、平成3年12月より240床に拡張。平成8年10月に現在の院舎が新築されました。

当院の診療内容の中核は、循環器、呼吸器を中心とした急性期医療と、産婦人科、小児科の周産期医療です。

医療圏としては人口約13万人の小樽市を中心に、周辺の余市町、岩内町、倶知安町などを含めた後志地区約22万人となっています。

平成15年3月には財団法人日本医療機能評価機構認定を取得し、管理型および協力型研修指定病院として初期研修医、後期研修医の受け入れを行っております。



院長 柿木滋夫



名誉院長 川村 健



副院長 竹藪公洋



病院外観

- ② 誠実さと思いやりの心を持って、安心できる医療を提供します。
- ③ 医療知識、技術の向上に努め、質の高い医療を提供します。
- ④ 地域医療機関との連携を図り、急性期病院としての役割を果たします。

2 理念

北海道社会事業協会の理念

私どもは医療、保険、福祉の従事者として力を合わせ心のこもった医療、看護、介護の実践に努めます。

小樽協会病院の理念

患者さまに寄り添い、良質で心のかよった優しい医療をめざします。

基本方針

- ① 患者さまの権利を尊重し、信頼される医療を提供します。

3 呼吸器内科の診療内容と特色

小樽、後志地区の呼吸器診療の中核病院として、3名の常勤医と1名の後期研修医で入院65床、外来約60名/日を診療しています。

人口約22万人の後志管内に呼吸器科専門医のいる入院可能な病院は、当院を含めて2カ所のみです。マンパワー不足は否めませんが、北海道大学病院内科Iや同門の先生方から定期的な診療応援をいただき、何とか維持しているところです。また、北海道大学病院内科Iからは教育連携により定期的にご指導をいただいています。当院からはCOPDや難治性喘息などの臨床共同研究に可能な限り参加させていただき、その成果はAJRCCMやThoraxなどの一流誌に掲載され世界に発信しています。

当院の特徴の一つは、バーチャル気管支鏡ソフ

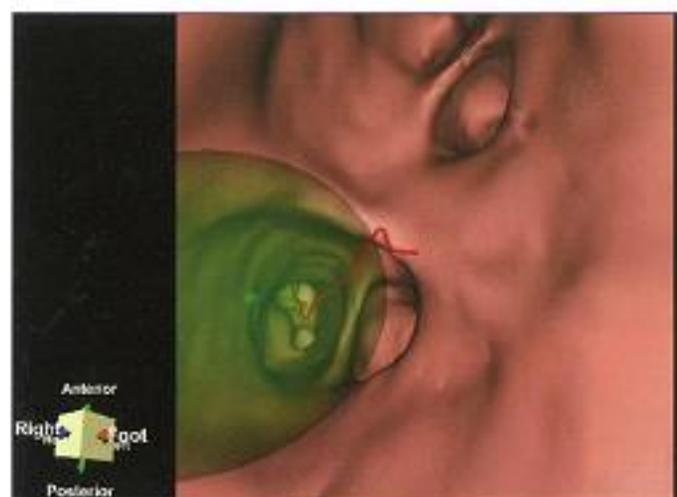


図1 Bf-NAVI

トウェア「Bf-NAVI」(図1)を早くから導入していることです。平成25年の年間気管支鏡件数は289件で、ここ数年はBf-NAVIとEBUS併用がルーチン化し、特に末梢小型病変に対する診断率の向上、検査時間の短縮が図られています。また、胸腔鏡手術前のバリウムマーキング、経皮的VATSマーカー挿入、留置も積極的に施行し、難治性気胸や咯血症例へのEWS留置も行っています。

第二の特徴は、呼吸器外科との密な連携です。肺癌や難治性気胸などで早期から呼吸器外科と症例検討を行い早期治療介入がなされています。もちろん、術前、術後の定期カンファレンスや症例検討会はルーチンに行われています。

第三の特徴は、当科を支える優秀なコメディカルスタッフで、特に7名の臨床工学技士の活躍をあげたいと思います。24時間態勢で救命救急時の治療のサポート、患者監視装置の装着、ME機器の保守点検を行い、日常業務に安心感を与えてくれます。当科にあっては人工呼吸器のみならず、睡眠時無呼吸症候群の検査、解析における役割も大きく、スクリーニングにより多くの睡眠時無呼吸症候群患者が発見されるようになっています。

4 呼吸器外科の診療内容

呼吸器外科は1994年から原発性肺癌を中心とした呼吸器手術を開始し、現在では約20年が経過しております。小樽、後志地区において呼吸器外科専門医が常勤する、呼吸器外科専門医認定修練施設-関連施設(基幹施設:北海道大学病院)として承認されています。

疾患としては原発性肺癌を主とする胸部腫瘍性病変を中心に診療しており、肺腫瘍に対しては病巣の状況にあわせて胸腔鏡下手術・開胸手術を選

表1 気管支鏡検査&肺生検(平成25年)

項目	件数
気管支鏡検査:総数	289
1) 可視観察+直視下生検擦過	44
2) 経気管支肺生検(TBLB)	68
3) 気管支肺胞洗浄(BAL)	25
4) EBUS-GS生検	193
5) EBUS-TBNA	12
6) バリウムマーキング	3
CTガイド下経皮肺生検:総数	28

択し低侵襲で手術を行う方針としています。

良性疾患としては気胸(原発性・続発性気胸)、縦隔疾患、膿胸等の炎症性疾患における保存的治療から外科的治療に至るまで取り組んでおります。

年齢に関わらず、患者さんの利益を第一に考え、根治性を損なうことなくQuality of Lifeにも配慮した上、安全第一の合併症の少ない治療を目指しています。

また、周術期の呼吸リハビリにも力をいれており、術前の禁煙指導から、多職種による周術期の呼吸リハビリの積極的なかわりにより、術前の準備、術後回復にかかわるよう患者さんが安全に手術をうけていただけるよう取り組みをしています。

5 当院の肺癌外科治療の特色

5.1 高齢者肺癌における治療

小樽後志地区は全体的に高齢の肺癌患者さんが多く、特に80歳以上の高齢者肺癌手術症例が増加している印象です。2010-2011年での当院での原発性肺癌手術例のうち、80歳以上は17.5%でした。これは同時期の日本胸部外科学会報告での80歳以上手術割合11.1%と比較すると、全国平均に比べて80歳以上の高齢者肺癌手術の割合が高い傾向が認められます。肺癌学会ガイドラインに述べられているよう、肺癌外科切除の適応を年齢のみで決定することなく、患者さんの病巣の状態、体力等を総合的に考慮し、標準手術・縮小手術も含め、患者さんの状態にもっともあった治療を施行するよう日々取り組んでおります。

5.2 術前未確診肺野末梢病変の診断治療

—気管支鏡下バリウムマーキングによる肺切除—
CTの普及により胸部X線写真では同定困難な肺野末梢小型病変が発見される機会がふえており、術中触診困難な(肺をさわってもわからない)すりガラス陰影の病巣の切除に際して、呼吸器科医師の協力のもと、病巣の局在を明確にする目的



集合写真

で気管支鏡下バリウムマーキング下での肺切除を導入しております。従来施行されていた経皮的マーキングに比べ、気管支鏡下バリウムマーキングは気胸・空気塞栓といった合併症のリスクが低く、かつ、手術時にマーキング部位をレントゲン透視下に容易に確認できる有用な方法と考えます。

今後も早期肺癌を主とした触診困難な肺野末梢小型病変の手術に際し、積極的に導入施行していきたいと考えております。

6 臨床研修について

臨床研修指定病院として初期（管理型2名、協力型2名）および後期研修医の受け入れを行って

います。少人数ながら、指導医とマンツーマン体制で多くの症例を経験でき、自分の学習時間も確保されるので、じっくり型の研修医には向いていると思います。

H26年6月には「第一回協友研修医談話会」が開催されました。当院で以前研修した先輩方と当院の研修医、スタッフが職種の垣根を越えて集まり、症例検討会を行い、また、その後、久々に酒席も交え、楽しい会となりました。若い研修医にとって、将来の大切な情報交換の場にもなっており、今後も定例開催を予定しています。

（竹藪公洋、石川慶大）

概要

正式名称	社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院（略称：小樽協会病院）
所在地	〒047-0014 北海道小樽市住ノ江1丁目6-15
理事長	高橋 透
病院長	柿木 滋夫
開設日	1925年（大正14年）9月1日
許可病床数	一般病床 240床
診療科目	消化器内科、内科、循環器科、呼吸器科、外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、産婦人科、小児科、麻酔科、放射線科
専門外来	糖尿病専門外来、健診専門外来、乳腺専門外来、循環器科ペースメーカー外来、小児科腎臓専門外来、小児科神経専門外来、小児科内分泌専門外来、小児科心臓専門外来、小児科遺伝代謝専門外来、禁煙専門外来
施設認定等	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本小児科学会認定専門医研修施設、日本外科学会専門医制度修練施設、呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設関連施設、日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設、日本大腸肛門病学会認定関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本呼吸器学会関連施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医暫定研修施設、日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医指導制度関連施設、エキスパンダー実施施設、日本麻酔科学会認定施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会教育研修認定施設、厚生労働省薬剤師実務研修事業研修受入施設、薬学教育協議会薬学生実務実習受入施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設